

# 交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2012年5月16日

No.21

夏季手当交渉スタート！！

## 基準内賃金×2.5ヶ月要求！

回答指定日 6月14日  
支払指定日 7月6日

中央本部は、本日2012年度夏季手当の申し入れを行いました。申し入れにあたり中央本部は、①JR発足から25年が経過した。当時、「明るく働き甲斐のある会社にして行こう」と決意を固め奮闘してきた。働きやすい会社になっているのか、風通しの良い職場になっているか。25年を節目として見返すことが必要である。②F21計画から会社は幾多の計画を示したが、その多くはコスト削減の手法をとってきた。しかし計画を達成出来なかった現実がある。③平成23年度決算の特徴は、コンテナ運輸収入が1000億円を下回るなかで経常黒字を達成した。震災の影響や運休が4800本あったの黒字達成は支出抑制の表れである。④12春闘でも確認したが、各系統の要員が逼迫している。発足から社員数は半減してきた。職場は「著変状態」にあり、要員増に向けた議論もしていきたい。⑤これらの厳しい条件にありながらも、貨物労組組合員の奮闘によって、社会的使命を果す企業に育ててきた。しかし、平成採用の組合員の賃金ベースは下がる一方であり、モチベーションも低下している。コスト削減一辺倒でなく、「人・物」に投資していくことが、安全輸送・安定輸送につながる。働く組合員の士気を高めるために夏季手当を申し入れるので、誠意ある回答を示すことを主張しました。



これに対して会社は、①発足25年の捉え方として、発足当初に比べ収入は大きく下回っている。5年でつぶれると言われた会社であったが、何とかしてここまで生き延びてきた。社員の頑張りも大きい。②平成23年度は黒字を達成できて良かった。赤字であれば気持ちの余裕が無かった。この間の社員の頑張りに感謝したい。③但し、コンテナ収入の落ち込みは命題であり、取扱量・収入を増加させるため旅客会社とも連携し運休の減少、顧客の不信解消を進めていく。あわせてコスト削減も会社として追求していく。④風通しの良い会社にしていく事は同じ認識である。⑤夏季手当については、昨年度の下期の状態及び現在の状況を見極めた上で真摯な議論を通じて進めていきたい。と現段階の考え方を明らかにしました。

組合員の皆さん！私たちはこの25年間、困難な状況にも逃げず責任組合として真正面から立ち向かってきました。一方、会社は「厳しい状況」を理由として毎回のように手当抑制姿勢を見せてきました。しかし、2年連続の黒字という現実、私たちのこれまでの努力の成果です。その成果をしっかりと夏季手当で還元させるため、全組合員が一丸となって闘いをつくり出そうではありませんか。中央本部は、組合員の想いに立ち、その最先頭で奮闘していく事を明らかにして、第1回交渉報告とします。

以上

次回、第2回交渉は5月28日(月)です。